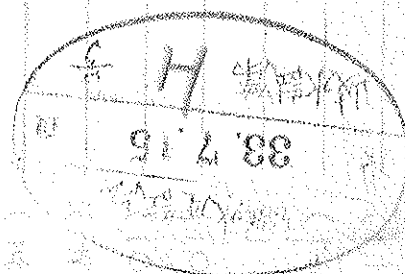


昭和二十七年十月

昭和二十六年度業務成績報告

岐阜県水産試験場



昭和二十六年度岐阜県水産増殖試験場業務成績報告

目次

一、温水性水族之部	鯉増殖事業	鮒同	金魚同	稻田養魚用種苗配布価格	二、冷水性水族之部	虹鱒増殖事業	鮎池中養成事業	家畜家禽飼育	鮎放流効果試験	改修工事	予算	場員名
	(一)	(三)	(四)	(四)		(五)	(七)	(一〇)	(一〇)	(一一)	(一六)	(一七)

温水性水族の部

一、鯉増殖事業

大正十二年からの継続事業で優良なる親魚から採卵孵化を行い全長四分一〜九分は養成して稲田養魚用種苗とし全長二寸〜三寸に養成したものを河川溜池放流用種苗として県下漁業協同組合及農業改良同組合へ夫々配布した。

A・産卵孵化

産卵は前年度に比して六日早く五月六日より開始し六回に亘り産卵せしめ六月十日に終了した。本年度の使用親魚数は〇十一二八尾、〇三〇一尾であり一尾の平均体重は〇十七〇〇㌘、〇二五〇㌘のものを使用した。

鯉採卵孵化成績表

採卵月日	使用親魚数			採卵概数	孵化概数	孵化率
	〇十	个	計			
五月六日	一四尾	三六尾	五〇尾	二〇〇万尾	一三〇万	六五%
五月十二日	三〇	五三	八三	二〇〇万		
五月十三日	一一	二六	三七	一五〇	二三〇万	六五九%
五月十八日	一三	四〇	五三	一五〇万		
五月二十四日	一八	七〇	八八	一五〇万	九〇	六〇%
六月十日	四二	七六	二八	二五〇万	一五〇	六〇%
計	一二八	三〇一	四二九	一〇〇〇万粒		

B. 飼 育

飼育池は六面二・二〇四坪を使用し予め排水、消毒施肥し「ミシンコ」を蕃殖せしめ稲田養魚用種は六月下旬まで飼育し河川溜池放流用種苗は七月より全飼料を給与して養成した。
餌料は主として魚屑、米糠を煮沸混合して使用した。
孵化種魚は概算坪当り左の割合で飼育池へ放養した。

放養期間	坪当りの放養尾数	放養魚の成長度	備 考
十五日間	二、〇〇〇 尾	全長 四分 — 五分	孵化直後の稚魚を放養
三十日間	一、〇〇〇	六分 — 八分	〃
六十日間	二〇〇	一寸 — 一寸五寸	〃

C. 配 布

(1) 五月 日から県下漁業校同組合及農業校同組合よりの申込みに対し左の通り配布した。
稲田養魚用種苗

配布魚の大きさ	配布尾数	配 布 先
四分 — 五分	一三六四、五〇〇 尾	西濃水産漁業校同組合外十一組合
五分 — 六分	二二〇九、五〇〇	〃
六分 — 七分	三四、二〇〇	〃
八分 — 九分	二三五、六五〇	〃
計	三八四三、八五〇	〃

(2) 河川溜池放流用種苗

配布魚の大きさ	配布尾数	配 布 先

(2) 河川溜池放流用種苗

配布魚の大きさ	配布数量	配布先
全長 二寸() 三寸	九六、〇〇〇 尾	西濃水産漁業技同組合へ配布した

尚五月十八日採卵した一五〇万粒の内五〇万粒を恵那郡漁業技同組合へ配布した。

二、鮎増殖事業

累年の継続事業で昨年移殖した琵琶湖産源五郎鮎より採卵孵化を行い稲田用、河川溜池放流用種苗として夫々養成配布した。

A. 産卵孵化

親魚は前年度から継続飼育した♀五二尾、♂一〇尾を使用した。産卵孵化は前年度と同様四月二十九日に開始し四月三十日に終了した。

B. 飼育

五月十一日予め「ミジンコ」を蒸殖せしめた飼育地一面四四六坪に孵化稚魚概数五〇万尾を放養飼育した。

六月下旬迄は稲田用種苗の配布を終了し七月より河川溜池放流用種苗として引続き同池に於て人工餌料を給与養成した。

C. 配布

五月二十三日より七月十八日までに全長六分() 九分に養成したものを稲田用種苗とし翌年二月までに全長一寸() 二寸に養成したものを河川溜池放流用種苗として夫々次表の通り配布した。

三 金魚増殖事業

場内鯉鮒の孵化池を利用して観賞用金魚の生産配布をした。
飼育した金魚は和金、戒金、東錦、出目金らんちゅうで全長一寸——二寸に養成したもの一七三七尾を配布した。

● 本年度の稲田養魚用鯉、鮒種苗の有償配布価格は左表の通りである。

区分	大 小	数 量	配 布 先
稲田用	六分〜七分	七、〇〇〇尾	岐阜県農業校同組合大安支所
〃	八分〜九分	五八、二〇〇	岐阜市役所農務課
河川溜池用	一寸〜二寸	二七、六〇〇	西濃水産漁業校同組合

魚種別	区 分	大 小	単 位	価 格	備 考
ふこ ない	稲田用	四分〜五分	一万尾	三六〇 円	23県が補助 生産地渡し
〃	〃	五分〜六分	〃	五七〇	〃
〃	〃	六分〜七分	〃	九〇〇	〃
〃	〃	八分〜九分	〃	一、五〇〇	〃

冷水性水族の部

一 虹鱒増殖事業

A. 人工採卵孵化

累年の継続事業で本場に於て養成した親魚から人工採卵孵化を行い発眼卵一三九、六〇〇粒を採り民営養鱒場へ四〇、〇〇〇粒を配布し残数九九、六〇粒に日光産虹鱒卵四〇、〇〇〇粒を加へ合計一三九、六〇〇粒を本場内孵化室に於て孵化せしめた。

本年度の使用親魚数は〇十二一八尾、一〇一七九尾で採卵は前年度に比し四日早く十二月二十一に開始二月二十五日に終了した。

採卵成績表

採卵回数	採卵月日	採卵数	親魚数		計	発眼月日	発眼数	孵化稚魚数
1	十二月三十日	一五、三〇〇粒	一〇	二五	三五	一月四日	七、四〇〇	五、五〇〇
2	十二月二十八日	一二、五〇〇	六	一八	二四	二月十一日	五、〇〇〇	四、〇〇〇
3	一月四日	二〇、〇〇〇	一七	三九	五六	一月十七日	一四、五〇〇	一一、八〇〇
4	一月十二日	二五、〇〇〇	一六	三〇	四六	一月二十六日	一二、五〇〇	一二、三〇〇
5	一月十八日	三七、〇〇〇	三二	四八	八〇	二月三日	二〇、〇〇〇	出 荷
6	一月二十五日	五〇、〇〇〇	二五	二五	五〇	二月八日	二九、〇〇〇	二〇、〇〇〇 出荷 九、〇〇〇 斃死
7	二月一日	五〇、〇〇〇	三四	四二	七六	二月十五日	一五、〇〇〇	斃 死
8	二月八日	五〇、〇〇〇	三〇	三〇	六〇	二月二十二日	二〇、〇〇〇	出 荷

採卵 母魚 数	採卵 月日	採卵 数	親 魚 数	発 眼 日	発 眼 数	孵 化 稚 魚 数
9	二月十五日	三八〇〇〇	二七	二月二十九日	六七〇〇	三七〇〇
10	二月二十五日	二〇、〇〇〇	二一	三月九日	五〇〇〇	八〇〇
計		三、七八〇〇	二一八		一三九、六〇〇	三八、一〇〇 尾

但し親魚の公に於ては二度使用せるものを含む

孵化稚魚は本場生産による三八、一〇〇尾と日光産三二四七〇尾、合計七〇、五七〇尾は三月三十一日まで四三、五三三尾の歩留りにて引続き養成するため来年度へ繰越した。

B. 飼育並出荷

本年度孵化せしめた稚魚四三、五三三尾には人工餌料として肝臓及魚屑三三尾を給与して養成し来年度へ繰越した。

前年度から引続き飼育した当才魚六四、三〇〇尾、親魚及武才魚四五三尾には人工餌料として動物性五四六八尾、植物性一、三四五尾を給与して養成し親魚及武才魚よりは前記採卵孵化表の通り採卵を実施し当才魚は親魚候補として六五〇尾を確保し、他は漁業校同組合及民営養鱒場へ夫々放流用、養成用種苗として配布し残りは食品として販売した。

虹鱒の出荷成績は左表の通りである。

出荷魚の 大さ	出荷 数量	出 荷 先	備 考
全長 二寸—三、五寸	一〇、〇〇〇 尾	丹生川村漁業校同組合	親魚候補用
〃	五、〇〇〇	津保川漁業校同組合	放流用
〃	五、〇〇〇	飛騨川漁業校同組合	〃

大寸—七寸	三、〇〇〇	益田川漁業校同組合	〃
〃	一、〇〇〇	丹生川村漁業校同組合	親魚候補用

大寸一七寸	三〇〇〇	益田川漁業同組合	〃
〃	一〇〇〇	丹生川村漁業同組合	親魚候補用
〃	一五〇〇	養老養鰯場	池中養成用
〃	一七〇	大垣市木村組	
五寸一七寸	七二×九二五尾	岐阜市 旭隆二	食用品

○、年度末現在虹鰻在池数量

親魚	〇十二八尾	〆一七二尾	計	四五三尾
武才魚				六五〇尾
稚魚				四三、五三三尾

二、鮎池中養成事業

前年度と同様場内鮎類養成池を使用し三月三十日に琵琶湖産小鮎三〇貫を移植放養し良順新鮮なる人口餌料を与へ成長の促進を計り南禁前五月五日より五月十日までに採捕し委託販売業者を通し東京都内へ出荷した。

A、養成池の概要

養成池は五面七一五坪を使用した、概要左の通りである。

池号	水面積	水深	設備概要
B二、四号 三面	一面 (六五坪) 三一四、九平方米	〇・六米 (二尺)	矩形縦一六、八二米(一〇向)横二、八二米(六向半)周囲コンクリート壁高さ〇、九米(三尺)底は礫〇、二五米(五寸)数注排水口は金網で遮断

池 号	水 面 積	水 深	設 備 概 要
B 五 六 号			矩形縦三三、六米（二〇間）その他B二、四号池と 同じ
四 面			

B. 水 源 堀鑿井戸による自噴水 水温 一四、〇度C

C. 種 苗 の 購 入 先

滋賀県小鮎配給良会を通じ三月三十日に安曇川配給所より三〇貫を購入した。

D. 種 苗 の 輸 送 成 績

滋賀県より貨物自動車一台及容器（大型水槽）二個を借用し本場員二名が付添同乗した。安曇川発午前九時、本場着午後二時所要時間輸送中の斃死は一貫一六〇外であり放養時秤量したら二貫三四〇外減じていた。

E. 放 養 月 日 及 放 養 数 量

放養月日 昭和二十六年三月三十日

放養数量 二六貫五〇〇外 二一、〇三二尾

F. 放 養 魚 の 大 小

平均 全長 八、九釐 体重 一、四瓦

G. 面 積 に 対 す る 放 養 尾 数

総面積 七一五坪、放養尾数 二一、〇三二尾、坪当りの放養尾数 二九尾

H. 飼 育 期 間

三月三十日より五月十日まで、四十一日間

I. 飼育期間中に於ける気温水温

水

温

1. 飼育期間中に於ける気温水温

	水		温		気		平均
	最	高	最	低	最	高	
三月中	一三八度 _c		一〇〇度 _c		一二〇度 _c	(一) 二〇度	九〇度
四月中	一六五		一二〇		二〇〇	一五〇	一五〇
五月中	一七五		一三〇		二五〇	一七三〇	二一、二

J. 給与した餌料の種類

動物性餌料 魚屑 生蛸 おみ

植物性餌料 米糠 越

K. 採捕

養成鮎は採捕を行う前日より投餌を中止しモーター及バーチカルポンプにより排水して採捕した。

採捕時の平均体重は一五瓦であった。

L. 出荷

鮎の出荷は禁止期間中である為知事の認可を得て行った。

販売先は全部東京都内で岐阜市、高見儀太郎、堀隆二両名を委託販売人として五月六日より五月十一日まで六日間に総重量六六貫七九〇匁を出荷した。

出荷魚の平均価格は一〇〇匁当り三〇〇円であった。

家畜家禽の飼育

A. 概要

場内空閑地と自然に繁茂せる雑草を利用して豚、山羊、鶏、七面鳥、鵜の飼育により堆肥、厩肥を生産し鯉、鮒、金魚の種苗養成に必要なミジンコ蓄殖用肥料とした。

B. 飼育物の出荷

近時ミジンコ蓄殖用肥料の入手が容易となつたので繁殖数全部を売却してこの事業を中止した。

試験

一. 鮎放流効果試験

A. 試験の概要

昨年に引続き淡水区水産研究所の試験委託費の交付を仰ぎ県水産係と協同して本年も実施した。昨年度は県内吉田川、荒城川、板取川、粕川、佐見川計五ヶ川を送定し該試験を実施したが本年度は試験の主目的を魚類の生態及環境に依る成長度及漁獲高調査におき徹底的に調査するため粕川、佐見川の二ヶ川につき試験調査を行つた。

尚、漁獲率の確認と前記二ヶ川が洪水その他の理由に依り調査不能となりたる場合の予備河川として吉田川、板取川、荒城川の三ヶ川について放流及漁獲高の調査を併せて実施した。

B. 漁獲高調査の結果

本年度実施した該試験の主目的たる全漁高調査の結果は左表の通りである。尚、該試験の細部に亘つては岐阜県放流効果試験報告書参照の事

河川名	放流尾数	放流重量	漁獲尾数	漁獲重量	漁獲率
佐見川	七二、三二四	二七一、一二五	三七〇九四	一九一七四〇五	五〇七〇
					%倍

改修工事

一、改修工事の動機

本場は創立以来二十三年を経て施設の荒廃腐朽甚だしく生産量は著しく低下して居る、然るに漁業制度改革に基く増殖計画を遂行するために本場に於て種苗を確保することが絶体必要である。幸にして本場は規模設備に於ては充分の能力を有しているが地震その他により湧出量の減少、池壁の荒廃孵化設備の腐朽のため生産量が著しく低下しているから、これらの施設を新設又は改設して放流用種苗の円滑なる供給を期す。

二、工事の経過

昭和二十七年一月岐阜県庁建築課の工事設計及工事施行監督により岐建木村組が昭和二十七年二月五日に着工し同年三月二十日に竣工した。

河川名	放流尾数	放流重量	漁獲尾数	漁獲重量	漁獲率
佐見川	七二、三二四	二七一、一二五	三七〇九四	一九一七、四〇五	五〇%
粕川	一一三、三〇〇	四四三、二五〇 g	五四、四六四	二、二三七、九四七 g	四八%
吉田川	四〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二四四九〇	一、一七〇	八一%
板取川	一五〇、〇〇〇	五六二、五〇〇	一二五、二三五	七、一九九	八三%
荒城川	七〇、〇〇〇	二六二、五〇〇	四七〇〇六	二、三八四	六七%

三、工事の経費

(一) 収支決算書

収 入		支 出	
国庫補助金	六〇〇,〇〇〇円	井戸堀請負工事	六六三,〇〇〇円
(内水面資源維持費補助金)		給排水施設養魚池	七三八,〇〇〇円
縣 費	八〇〇,〇〇〇円	醇化室等請負工事	
計	一四〇〇,〇〇〇円	計	一四〇〇,〇〇〇円

(二) 新設増設又は改設した施設の内容

区分	名称	構造概要又は型式	坪数又は延長	単価	金額	新設増設 各改設の別	収容又は生産 能力向上見込
工作物	井戸	深井戸七五間 井戸入子	五ヶ所 二ヶ所	—	六六三,〇〇〇円	新設五 改設二	湧水量 一分間二六石
〃	給排水施設	コンクリート改修	延八〇間巾三尺 その他三十一ヶ所	—	二九三,六二〇円	改設	
〃	飼育池	〃	六五坪水面及稚魚池	—	二四五,八〇〇円	〃	貯上後三寸のものは四〇,〇〇〇尾以上
建物	醇化室その他	建物改修	室内改修	—	一三八,五八〇円	〃	
機械器具	醇化槽	長一、三三尺 巾一、三三尺 深一、二尺	二十四個	二五〇〇円	六〇,〇〇〇円	新設	一三〇〇,〇〇〇粒 生産
合 計					一四〇〇,〇〇〇円		

(三) 工事明細書

(1) 井戸掘工事 深井戸 五ヶ所新設、二ヶ所改設

(三) 工事明細書

(1) 井戸掘工事 深井戸 五ヶ所新設、二ヶ所改設

名 称	数 量	単 価	金 額	摘 要
深井戸掘、深さ 75K (No.1 S No.5)	五ヶ所	六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	掘貫、二天主管三本、三寸給水主管四本、取付共、2ヶ所支給、4導水鉄管取付
深井戸用入子内釜三寸長 75K	五本	六〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	亜鉛釘鉄板20井取付共、継手20井中三寸ソケット半田付
既設井戸入子内釜三寸長 25K	一式	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	22井亜鉛釘鉄板その他金上、支給、4導水管取付共
計			六六二、〇〇〇円	

(2) 給排水施設改修工事

名 称	数 量 単 位	単 価	金 額	摘 要
噴水接続給水、4鉄管及土管撤去	十五延間	二二〇円	三三〇〇円	噴水から5K残置その他掘起し撤去、埋立二式
丁池、4給水管補修	十一ヶ所	四二〇	四、六二〇	残置、4鉄管丁池に接続、T、T、S A池箇所掘下げ、4
A池給排水溝除去(内巾2R深1尺) 外側から三尺取こわし	六四	二二〇	一四、〇八〇	鉄管口変更内周五寸土管使用
全給排水口新設 (内法巾2R深1尺壁厚5寸)	六四	二、六〇〇円	一六、四〇〇円	1:2:4コンクリート、4ヶ所
全給排水口補修 (内法巾2尺長15尺)	二〇ヶ所	六五〇	一三、〇〇〇	筋三十横間、掘入内面上面、セメントモルタルぬり
B池排水主管(一尺)掘下げ(掘方深三六尺巾三尺)	六三延間	二四〇	一五、一二〇	

(3)

養魚池改修工事

名	称	数量単位	単価	金額	摘	要
全赤土埋戻(給水溝下掘入井)		六三	七〇〇	四四、一〇〇		赤土費、埋戻、掘削費等一式
B ₁ B ₂ 給水暗渠改修(1.3.6)	(コンクリート)	一ヶ所	三、〇〇〇	三三、〇〇〇		在来給水撤去、新設内法、巾三尺深三尺、壁厚五寸長一五尺
計				三九三、六二〇円		

(4)

孵化室改修工事

名	称	数量単位	単価	金額	摘	要
下池壁新設 (巾4尺深18尺9K鉄筋尺間投入)		五〇延向	九四〇	四七、〇〇〇円		外面モルタル塗
全内底及壁セメントモルタル 45寸塗(8井線6寸間投入)		二六面坪	一、三〇〇	三三、八〇〇円		旧壁ハツリ落し施工 立上り共
B ₁ B ₄ 池側壁補強(1.2.4)	(コンクリート)	一三二延向	一、二五〇	一六五、〇〇〇円		壁厚4寸高さ3尺底巾12尺 8井筋2尺挿入L型
計				二四五、八〇〇円		

名	称	数量	単価	金額	摘	要
孵化室主面コンクリート打 (厚3寸)			一、二〇〇円	四九、二〇〇円		上面モルタル塗
孵化室腐蝕土台取換 (拾4寸×4寸8K全面タル塗)		一式	一	三、九〇〇円		税工共
全腐蝕柱根継 (拾4寸×2尺8Kタル塗)		一式	一	二、五〇〇円		

全腐蝕柱根継 (桧4寸角2尺8寸タール塗)	一式	1	二、五〇〇 円	
全内部羽目補修 (桧玉厚4分)	五面坪	八〇〇 円	四、〇〇〇 円	腐蝕部取換タール塗
全外部型羽目板取換 (杉玉4分厚)	九面坪	一、〇〇〇 円	九、〇〇〇 円	附土台見切縁水切鉄板 取付クレオソート塗機工一式
全窓硝子障子新設 (3尺 X 4.5尺厚1/2寸杉材)	六本	一、二〇〇 円	七、二〇〇 円	在来建具に準ず建入 ガラスはめ込金物共一式
全在来障子建付直し (3尺 X 4.5尺)	二四本	一〇〇 円	二、四〇〇 円	戸車金物不良分取換共
全出入口引戸上機取換	一本	1	三〇〇 円	建込共
孵化槽新設 (深尺板厚寸外長1.5尺 内法巾1尺)	二四ヶ	二、五〇〇 円	六、〇〇〇 円	在来品に準ず 杉材内部タール塗排水孔取付
孵化室壁補修 (内外共下塗補修の上塗主漆落し柱束迄仕上)	四五面坪	二五〇 円	一、一、二五〇 円	
軒樋架換新設 (28#亜鉛鉄板内側部タール塗外部ペンキ塗)	二〇延向	1	五、八〇〇 円	旧樋取はつしめ上新設する 加工取付仕上げ工一式
堅樋架換新設 (28#亜鉛鉄板鉄板全2.5尺長2尺)	六本	七二〇 円	四、三二〇 円	全上
鯨 鯨 (28#亜鉛鉄板)	六ヶ	五〇〇 円	三、〇〇〇 円	ペンキ塗り加工取付共

予
算

諸経費	一式	三五、七一〇円
計		一九八、五八〇円

種目	支出		収入	
	金額	予算	種目	金額
旅費	一一八、五〇〇円		虹鱒増殖事業	三〇〇、〇〇〇円
賃金	二一四、一〇〇		鮎池中養成事業	二〇〇、〇〇〇
消耗品費	六一三、六〇〇		金魚増殖事業	一〇、〇〇〇
燃料費	三〇、〇〇〇		家畜飼育事業	三〇、〇〇〇
光熱水費	一五、六〇〇		家禽飼育事業	四五、〇〇〇
通信費	三九、四〇〇		鯉増殖事業	一七〇、〇〇〇
修繕費	三〇、〇〇〇		鮎増殖事業	六〇、〇〇〇
備品費	三一、〇〇〇			
原材料費	一四六、〇〇〇			
工事請負費	二〇〇、〇〇〇			
食料費	四〇、〇〇〇			
計	一四七八、二〇〇			八一五、〇〇〇

註、取員給料を含みます。

場員

一、職員	職名	氏名
	場長 技術吏員 三級	東恩納 貞夫
	技術吏員 三級	石井 重男
	助手	高橋 一美
	傭	篠田 昭次
二、常備人		曾我 美良
		和田 友成
計		六名